

心不全診療サポートチーム 多職種で再入院を予防

西区の北海道大野記念 病院（齋藤孝次理事長、大川洋平院長・276床）は、循環器内科で最新のデバイスを用いた心疾患治療を展開している。中でも心不全については、さまざまな職種の連携による診療サポートチーム

に対して、在宅での増悪や、再入院の予防につながる。これまで難しかった高齢者の治療にも積極的に取り組んでいる。心不全は、退院後の患者の生活習慣改善やそのサポート次第で、再び悪化する。高年齢者や生活習慣病患者の増加を受けて、経皮的カテーテル心臓介入も増えれば、「心不全パニック」となる。社会的に大きな負担になることが危惧されることから、山下武廣副院長の提案で、17年に同サポートチームが結成された。

同病院は、前身となる心臓血管センター北海道大野病院の時代から、30年以上にわたり、心臓疾患の治療で道内をリードしている。2016年の移転新築を機に、高度急性期基幹病院として、がんや脳卒中を加えたら大疾病と、運動器疾患に対応する多機能病院にリニューアルした。



チームメンバーは経験豊富なスタッフが揃っている

心不全は、退院後の患者の生活習慣改善やそのサポート次第で、再び悪化する。高年齢者や生活習慣病患者の増加を受けて、経皮的カテーテル心臓介入も増えれば、「心不全パニック」となる。社会的に大きな負担になることが危惧されることから、山下武廣副院長の提案で、17年に同サポートチームが結成された。



それぞれが専門知識・技術を生かして治療を支援

併症の有無、認知機能なスタッフの中には、心臓リハビリの資格者もおり、治療からリハビリ、在宅まで専門知識と技術に優れたスタッフがチームに集結している。対象者が決まった後、入院時にNT-pro BNPが2000pg/ml以上の患者を臨床検査技師がスクリーニングし、そのデータを基に医師、看護師、理学療法士がサポート対象患者をピックアップし、チームに介入の目安として、栄養状態が悪化しているケアやフレイルティ、ADLなど、BPMIに注視するとともに、独居、合

併症の有無、認知機能なスタッフの中には、心臓リハビリの資格者もおり、治療からリハビリ、在宅まで専門知識と技術に優れたスタッフがチームに集結している。対象者が決まった後、入院時にNT-pro BNPが2000pg/ml以上の患者を臨床検査技師がスクリーニングし、そのデータを基に医師、看護師、理学療法士がサポート対象患者をピックアップし、チームに介入の目安として、栄養状態が悪化しているケアやフレイルティ、ADLなど、BPMIに注視するとともに、独居、合

併症の有無、認知機能なスタッフの中には、心臓リハビリの資格者もおり、治療からリハビリ、在宅まで専門知識と技術に優れたスタッフがチームに集結している。対象者が決まった後、入院時にNT-pro BNPが2000pg/ml以上の患者を臨床検査技師がスクリーニングし、そのデータを基に医師、看護師、理学療法士がサポート対象患者をピックアップし、チームに介入の目安として、栄養状態が悪化しているケアやフレイルティ、ADLなど、BPMIに注視するとともに、独居、合

HST ラウンドシート (Patient Round Sheet) form with fields for patient information, lab results, and clinical notes.

独自に作成したラウンドシート

チームの活動がきっかけで、チーム外の多くのスタッフも心不全に対する理解が深まり、患者の小さな変化にも気が付くようになったという。